

# 京都社会学年報

第16号  
2008年12月

## 〈論文〉

在日韓国・朝鮮人児童のアイデンティティとポジショナリティ  
—— 京都市立小学校における「民族学級」を事例に —— 金 兌恩

紛争イシューの多様性に関する複合レジームモデル  
—— 政治的機会構造、行為社会学、福祉レジーム、受益/受苦圏 —— 濱西 栄司

歴史から見た日本と西洋のカルチュラル・トレード  
—— ジャポニズムからジャパン・クールへ —— レナト・リベラ

コミュニケーション・メディアの利用形態とジェンダー  
—— JIS2004の分析から —— 古川 直子

肯定性を生きたる戦略としての「語り」と「対話」  
—— 在日朝鮮人=日本人間「ダブル」のライフ・ストーリーを事例として —— 李 洪章

## 〈書評論文〉

新しい普遍主義  
Immanuel Wallerstein,  
*European Universalism: The Rhetoric of Power*  
(The New Press, 2006) ミロシュ・デブナール

グローバル化の中のサッカー  
Franklin Foer,  
*How Soccer Explains the World: An Unlikely Theory of Globalization*  
(HarperCollins, 2004) 岩谷 雄介

グローバリゼーションと国際移動する女性  
—— 台湾系アメリカ人のトランスナショナルな家族を例として ——  
Maria W. L. Chee,  
*Taiwanese American Transnational Families: Women and Kin Work*  
(Routledge, 2005) 松谷実のり

中国都市における農村出身女性  
Tamara Jacka,  
*Rural Women in Urban China: Gender, Migration, and Social Change*  
(M. E. Sharpe, 2006) 穆 亜萍

オランダにおける女性労働と育児支援政策  
J. J. Schippers, J. J. Siegers and J. de Jong Gierveld (eds.),  
*Child Care and Female Labour Supply in the Netherlands: Facts, Analyses, Policies*  
(Thesis Publishers, 1998) 谷 紀子

近代日本の国民食  
—— 日本食の形成における「軍隊」の役割 ——  
Katarzyna Joanna Cwiertka,  
*Modern Japanese Cuisine: Food, Power and National Identity*  
(Reaktion Books, 2006) 安井 大輔

〔編集規定〕

1. 本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年1回発行する。
2. 1) 本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。  
2) 編集委員会は本研究室の教員および大学院生代表者により構成される。  
3) 編集委員会に関するその他の細目は別に定める。
3. 本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。
4. 1) 本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教員、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。  
2) 投稿に関する細目は別に定める。
5. 論文等は、未公開のものに限る。
6. 論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。
7. 本誌に掲載された原稿の著作権は、社会学研究室に帰属するものとする。著作者が本誌に掲載された文章を再録しようとする場合は、事前に本研究室に届けでる。
8. 1) 論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。  
2) 執筆要項は別に定める。

## 目次

### 〈論 文〉

- |   |         |    |
|---|---------|----|
| 在日韓国・朝鮮人児童のアイデンティティとポジショナリティ<br>—— 京都市立小学校における「民族学級」を事例に ——     | 金 兌恩    | 1  |
| 紛争イシューの多様性に関する複合レジームモデル<br>—— 政治的機会構造、行為社会学、福祉レジーム、受益／受苦圏 ——    | 濱西 栄司   | 21 |
| 歴史から見た日本と西洋のカルチュラル・トレード<br>—— ジャポニズムからジャパン・クールへ ——              | レナト・リベラ | 37 |
| コミュニケーション・メディアの利用形態とジェンダー<br>—— JIS2004の分析から ——                 | 古川 直子   | 55 |
| 肯定性を生きる戦略としての「語り」と「対話」<br>—— 在日朝鮮人＝日本人間「ダブル」のライフ・ストーリーを事例として —— | 李 洪章    | 75 |

〈書評論文〉

- 新しい普遍主義 ミロシュ・デブナール 97  
Immanuel Wallerstein,  
*European Universalism: The Rhetoric of Power*  
(The New Press, 2006)
- グローバル化の中のサッカー 岩谷 雄介 107  
Franklin Foer,  
*How Soccer Explains the World: An Unlikely Theory of Globalization*  
(HarperCollins, 2004)
- グローバリゼーションと国際移動する女性 松谷実のり 115  
—— 台湾系アメリカ人のトランスナショナルな家族を例として ——  
Maria W. L. Chee,  
*Taiwanese American Transnational Families: Women and Kin Work*  
(Routledge, 2005)
- 中国都市における農村出身女性 穆 亜萍 125  
Tamara Jacka,  
*Rural Women in Urban China: Gender, Migration, and Social Change*  
(M. E. Sharpe, 2006)
- オランダにおける女性労働と育児支援政策 谷 紀子 135  
J. J. Schippers, J. J. Siegers and J. de Jong Gierveld (eds.),  
*Child Care and Female Labour Supply in the Netherlands: Facts, Analyses, Policies*  
(Thesis Publishers, 1998)
- 近代日本の国民食 安井 大輔 145  
—— 日本食の形成における「軍隊」の役割 ——  
Katarzyna Joanna Cwiertka,  
*Modern Japanese Cuisine: Food, Power and National Identity*  
(Reaktion Books, 2006)

〈執筆者紹介〉(掲載順)

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページ ([http:// www.socio.kyoto-u.ac.jp](http://www.socio.kyoto-u.ac.jp)) をご参照ください。

金 兌恩

博士後期課程 3 年次

教育社会学、移民社会学、アイデンティティ論、エスニシティ論。学校における外国人児童にかかわる教育実践や、その場に参加する児童たちのアイデンティティをめぐる諸問題を、フィールドワークを通して研究している。(「公立学校における在日韓国・朝鮮人教育の位置に関する社会学的考察」『京都社会学年報』第14号、2006年、「多民族・多文化教育と新たな共同性の構築」『ソシオロジ』第164号、2009年〔予定〕)

E-mail: taeun.kim67@gmail.com

濱西 栄司

博士後期課程 2 年次

福祉／政治社会学・社会学理論・集合行為論。社会保障／福祉領域をめぐる自助／支援活動(社会的企業・NPO)の実証研究。(「動員論と行為論、及び第三のアプローチ」『ソシオロジ』第163号、2008年、「集合的アイデンティティから経験運動へ」『ソシオロジ』第154号、2005年)。

E-mail: cbt25360@pop21.odn.ne.jp

レナト・リベラ

博士後期課程 2 年次

日本におけるメディア、サブカルチャー、またそれらの海外における消費により、構築されている「日本」の研究。大阪大学COEプログラム『インタフェイスの人文学』: 「イメージとしての<日本>」に、2004年から2006年まで参加。また、映像社会学研究会に2005年から2008年まで参加、ドキュメンタリー作品『Notes from Abroad』を製作。現在、京都大学グローバルCOEプログラム『親密圏と公共圏』の次世代研究ユニット「異文化間の親密の関係性の構築をめぐる研究」代表。

古川 直子

博士課程 1 年次

精神分析研究、ジェンダー／セクシュアリティ理論。

李 洪章

博士課程1年次

エスニシティ論、アイデンティティ論、在日朝鮮人をはじめとしたコリアン・ディアスポラ研究。具体的には、在日朝鮮人と日本人のあいだに生まれたいわゆる「ダブル」へのライフストーリー・インタビュー、日朝友好団体や民族学校でのフィールドワークなどを通して、在日朝鮮人と日本人の接触領域で生じる諸問題を記述・解説し、それを解決するために行われる「対話」の可能性について検討している。「在日朝鮮人の生活と帝国主義」蘭信三編著『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』、不二出版、2007。

デブナール・ミロシュ (Miloš DEBNÁR)

修士課程1年次

移民・多様性・グローバル化・エスニシティ・文化・コスモポリタニズム。現代日本における在日外国人の多様性に注目し、特に極小マイノリティをめぐる諸問題と、そこからの社会ないし文化全体へのインパクトについて調査している。

岩谷 雄介

修士課程1年次

スポーツ社会学。日本のサッカークラブチームと地域との関係に興味がある。

松谷 実のり

修士課程1年次

移民研究、ジェンダー論。とりわけアジア圏の国際移動について興味を持っている。

穆 亜萍

修士課程1年次

ジェンダー・家族研究。特に育児雑誌にかんする考察・再生産の国際比較。

谷 紀子

修士課程1年次

ジェンダー論。特にオランダにおけるジェンダー政策について、比較による視点から研究を行なっている。

安井 大輔

修士課程1年次

文化人類学・食文化・エスニシティ・移民研究・モノ文化・都市社会学・文化社会学。現代日本におけるエスニック・フードのクレオール性について実証・理論の双方から追求したい。具体的には本土沖縄移民・日系南米人の集住地域におけるレストランについて調査している。

E-mail:hs0130yd@yahoo.co.jp

## 京都社会学年報 第16号

2008年12月25日発行

編 集 京都社会学年報編集委員会  
(編集代表 松田 素二)

発 行 京都大学文学部社会学研究室  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075-753-2758 FAX 075-753-2836

製 作 株式会社 田中プリント  
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入  
TEL 075-343-0006 FAX 075-341-4476



この本をそのまま読むことが困難な方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は出版社へご連絡ください。

—《Editorial Regulations》—

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2. i) This journal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.  
ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.  
iii) Details of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4. i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.  
ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7. The copyright for each article included in KJS belongs to the Department of Sociology. In cases any article published in KJS is reproduced elsewhere, the author should notify the Department in writing.
8. i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.  
ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.



# Kyoto Journal of Sociology

No.16 December 2008

## ARTICLES

- The Identity and Positionality of Korean Children in Japan:  
A Case Study of *Minzoku* Class in Public Schools in Kyoto City  
Tae Eun KIM
- Complex Regime Model for the Variety of the Conflict Issues:  
Political Opportunity Structure, Action Sociology,  
Welfare Regime and the Structure of the Beneficial Sphere and Costly Sphere  
Eiji HAMANISHI
- Cultural Trade between Japan and the West as Seen Through History:  
From *Japonisme* to "Japan Cool"  
Renato RIVERA
- Media Usage Pattern and Gender Differences  
Naoko FURUKAWA
- 'Narrative' and 'Dialogue' as a Strategy for Life with Positiveness:  
Through the Life Stories of 'Doubles' between  
the Zainichi-Chousenjin and the Japanese  
LEE Hong Jang

## REVIEW ESSAYS

- Immanuel Wallerstein,  
*European Universalism: The Rhetoric of Power*  
Miloš DEBNÁR
- Franklin Foer,  
*How Soccer Explains the World: An Unlikely Theory of Globalization*  
Yusuke IWAYA
- Maria W. L. Chee,  
*Taiwanese American Transnational Families: Women and Kin Work*  
Minori MATSUTANI
- Tamara Jacka,  
*Rural Women in Urban China: Gender, Migration, and Social Change*  
Yaping MU
- J. J. Schippers, J. J. Siegers and J. de Jong Gierveld (eds.),  
*Child Care and Female Labour Supply in the Netherlands: Facts, Analyses, Policies*  
Noriko TANI
- Katarzyna Joanna Cwiertka,  
*Modern Japanese Cuisine: Food, Power, and National Identity*  
Daisuke YASUI